

(別紙) 成果報告書

「移住者目線での移住促進に向けた情報発信」に関する研究

静岡大学 農学部

指導教員：准教授 藤本穰彦

参加学生：伊東さの子、中川智裕、岡野直紀、菅沼
勇伝、小杉健作、奥洞知依、大津雄平、岡田千尋

1 要約

今回の活動の結果、人口減少のすすむ小規模・高齢化集落では、移住者を受け入れる条件として、水や道等の社会インフラ整備の協同労働に対する要望（期待）が大きいことがわかった。そのため、本活動では、学生と共に、集落水道の整備をテーマに活動し、ノウハウをマニュアルにまとめた。また、地域のキー・パーソンと共に、他地域のキー・パーソンと出会い、移住・定住者と共に交流・議論する機会を設けた。本活動における様々な仕掛けで、地域住民の機運が盛り上がり、学生と共に、取水口をメンテナンスフリーにするためのワークショップが開催される等、具体の協同行動が萌芽してきた。

いかにして、双方の積極的な合意のもとで移住が促進されるのか。今回の「水の自治」に関する協同労働を契機とした移住者目線での移住促進のプロセスデザインをノウハウ化し、移住希望者と受け入れ地域住民の間の関係作りが上手くいくよう情報発信していくためのノウハウを蓄積することが出来た。

2 研究の目的

梅ヶ島地域の各集落では、生活用水や農業用水の自主的な管理が年々困難になっているようだ。他方、UIターンを求める若い住民が現れ始める等、移住・定住へむけた機運が高まっている。具体的な移住・定住支援に着手する時機が到来しており、その条件を移住者目線で抽出し、発信したい。

なお、移住者目線を担保するものとして、学生の役割を大事にする。学生との活動や意見交換は、地域にとっては移住者（よそ者）を受け入れるための練習の機会となり、学生にとっては自らの関心を将来の暮らしやキャリアと接続させる貴重な機会となるからである。

3 研究の内容

「水の自治」を糸口に、移住者と受け入れ住民の間で移住の条件のひとつを確認した。当初予定になかった本格的な実践に展開し、集落水道管理の新たな方法を構築する過程にある。このような過程全てが移住者目線での移住促進に向けた貴重なデータ収集であり、受け入れ住民にとっては、よそ者を受け入れる実践的な学習となっている。

平成28年11月13日、12月29-30日、平成29年1月7日、2月4-5日：大代地区にて、取水口の改変にむけたいくつかの実験を行ったほか、維持管理の方法をマニュアル化し、水道整備に関する移住条件をまとめた。平成29年1月17日：入島集落の山の神祭り（新来者を受け入れる祭りでもある）に参加した。平成29年2月12日：若手しいたけ農家と共に、伊豆市・NPOサプライズ「移住定住ツアー」に参加し、学習会を開催した。平成29年2月13日：林業家と共に、川根本町にて、林業・エコツーリズム関係の移住者と学習会を開催した。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

学生と共に、地域の移住者受け入れに向けた課題の抽出と移住の条件の解明を行なうワークショップを複数回行なうことを計画していた。また、梅ヶ島住民のキー・パーソンと共に、ユニークな移住・定住イベントに参加し、参加者や企画者と学習会を開催する。

(2) 実際の内容：「A」当初の予定を上回る活動に発展した。

その理由：「地域の水」を課題とすることで、地域住民とよそ者双方が、共通の関心のもと、課題を共有し、協同の活動を実施することが出来たからである。地域住民の機運が高まったため、移住・定住の学習会も、2回開催することとなった（当初1回予定）。しいたけ農家、林業家等、これからの地域を担っていくキー・パーソンと共に、先進地での学習会を開催でき、本格的な議論が生じつつある。

(3) 実績・成果と課題

本活動の結果、地域住民の主体形成の機運が高まり、自主的な集落水道の維持・管理活動が生成され、よそ者を巻き込んだかたちで進行している。ユニークな集落水道管理マニュアルが出来つつあり、今後の活用のなかで実際の作業を通じて修正して完成度を高めていきたい。

(4) 今後の改善点や対策

予想を上回る活動が展開したため、当初盛り込む予定以上の内容を、マニュアルに盛り込む必要が出てきた。地域住民の要望に応えるための、集落水道に関する技術的な実験も必要であり、一年を通じた観察が必要になる。これらの発展的な活動を継続しつつ、来年度以降は、「水の自治」から集落自治への展開をはかり、日常営まれている農林業、自給的暮らしについて調査し、暮らし方の見本づくりを行い、情報発信につなげていきたい。

5 地域への提言

来年度もこの調子で、協同活動を進めて行きましょう。多くの人を巻き込みながら、少しずつ進めて行きましょう。一人ひとりがキー・パーソンとして立てるような活動を興して行きましょう。

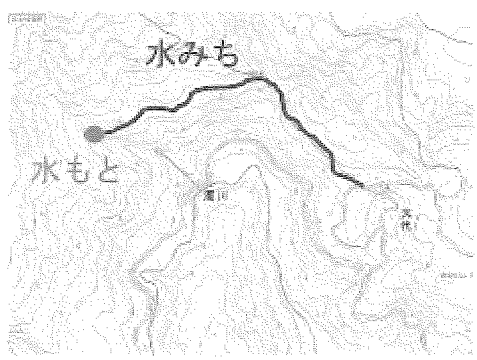
6 地域からの評価

「やる気になった。これからはチコスの丘（大代集落の移住定住構想）づくりを、改めて本気でやっ
ていこう。どんどん言っていく。発信していく。仲間をつくっていく。藤本先生来年もよろしくね。」（あ
る若手しいたけ農家）

「今年の秋には、集落総出で、水もとをなんとかしよう。学生やみんなも手伝ってもらってみんな
一緒にやろうや。」（町内会長）

大代の水みちと水もと

事例



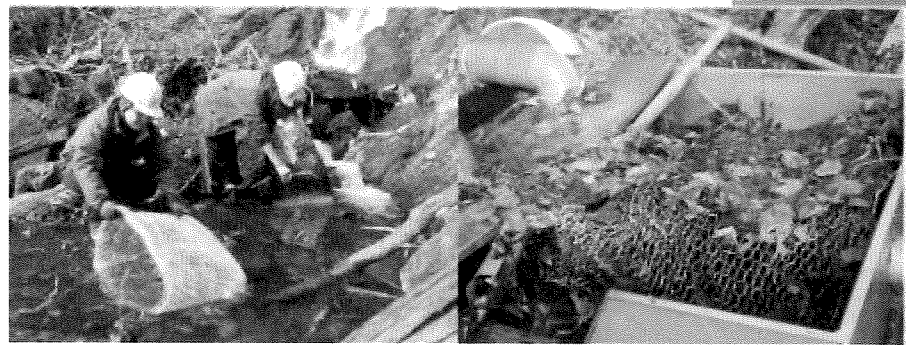
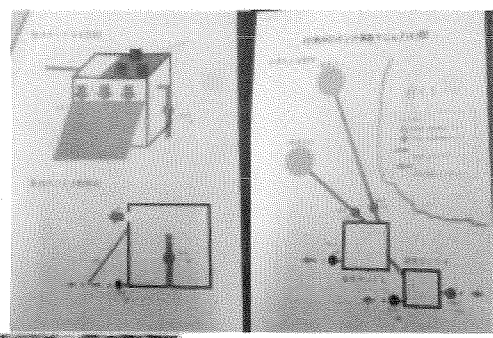
大代から水もとまでの地形図

- 渓流水を取水・導水した集落水道。
1930年代に集落で開設し、自主管理している
- 水みちの距離は約1.7キロ
高低差は約140m、片道40～50分の道のり
- 水もとからポリプロピレンのパイプで導水
(2001年頃3年をかけて集落工事)
- 集落上の貯水タンク(9m³)に貯留して配水
- 集落の推計水使用量28.6m³/日(周藤,2012)
- 水源の流量8l/s-15l/s程度

「高齢化により維持が困難になりつつある」
「出来るうちに工事や整備をしておきたい」
「次の世代に借金は残したくない」

水もとの管理

- ノウハウのマニュアル化
地域住民に教えてもらいながら実践



事例

2016.12.29

2017年
水もとの改変へ



